

列でこと足れりとされた。しかし学校制度の改革、教育内容の変革に伴つて、学校建築のあり方も、新しい進歩的な考えから次の様な点が強調されるようになって来ました。

- (1) 生徒が生活するのに便利であること
- (2) 魅力ある形、美しい色彩、水呑み場や手洗い場が、便り易い場所であり、快適な環境であること
- (3) 多人数集つて共同生活をする場所であるから伝染病を媒介しやすいし、特に中学生は身体の均衡の破れ易い時期で病気にかかり易いので、特に衛生設備を完備するよう努力したい。便所と手洗い場の改善は第一にとりあけなくてはならぬ問題である。このために医務室の特設が考慮されなくてはならない。
- (4) 教育計画によく適合したものでなくてはならない
普通教室 図書室 理科教室 裁縫室 職業実習室 工作室 家事実習室 音楽室 図書室等が必要である
- (5) 学校は生徒を收容しているものであるから規格に合った安全性をもたなくてはならない。

(6) 社会公共施設として利用されるものであること

三、本村の計画案

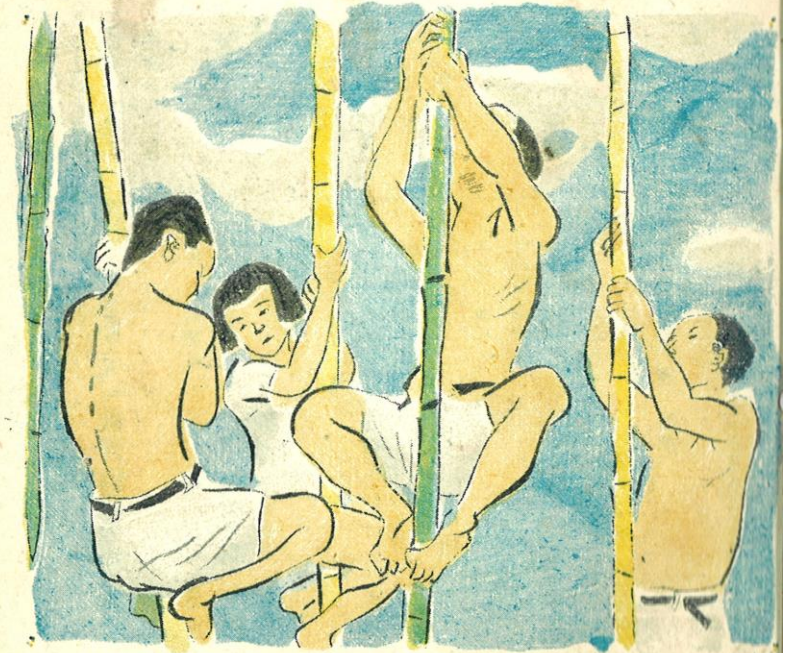
学校を建築する場合の敷地の片隅に現在必要とする校舎を建築し、生徒数の増加のため次々に増築して行くと言うのが、従来のゆき方であつた。この方法で行くと学校全体としての統一を欠き、ちぐはぐな形態となることは必至である。

本村に於ては将来の計画もあるので、始めに大きな構想を立て、敷地に全体の校舎をどんなに建築するか教室の配置計画を立て、そのうち最も必要なものから、第一期、第二期と工事を進めてゆくことがよいと思ふ。先ず第一期工事として二階の校舎は是非必要である。普通教室五(二十八年年度まではこれよりが二十九年度は六学級になるので一教室不足となる) 図書室 資料室(学校の心臓部と言はれる程教育的価値を認められ、本校もその運営に相当の成績を収めているので欠く事は出来ない) 裁縫室(これも家庭科の教育になくはならない最低限の教室である)

その他職員室、応接室、便所は言うまでもない。わけて便所は改良便所にしてほしいと思ふ。

さかえ

教育特集号



栄村公民館

教室は奥行六米、間口十米が新しい規格になつてい
る。教室と廊下との境は壁で仕切られてゐる。これは
採光の点から言つても、廊下の騒音に關係なく、靜か
に勉強する事から言つても、合理的に出来てゐるので
新しい規格をとり入れることがよいと思う。

教育の効果をあげるには、完備した施設、豊富な予
算、加うるに教師の熱意とが必要であります。その意
味に於て本村の賦政の許す範圍に於て、最高の校舎の
建築されることを念願してやみません。



子どものくどきき

米小学校 根本 養三

-(3)-

夏休みも終りに近ずき、宿題整理に忙しい三年生
徒の男の子が、縁側に机を出して、何かせつせと書
いている。傍ではその子の母親が野良着をつくろつ
ている。析から爆音高く飛行機が飛んでいく、する
と突然子供は母親にたすねた。

「お母さん、飛行機つてどうして飛べるの」
「フ、フ、フ、があるからよ」母親は仕事の手を止めず

ぶつきらぼうに答えた。

「フ、フ、フ、がある」とどうしてとべるの」
子はまた追求した。母親はぐつと返答にまつたよ
うである。何とかごまかそうとしたが子供はどうし
ても納得しないで、次々に疑問を投げてくる。とう
とう、母親は「知らない」といへば親の沽券にでゆ
か、わるとても思つたのか

「うるさいねお前は、どうしてそうくどききなの、
かあちゃんば忙しいんだから勉強終つたら外へ出て
遊んでおいで」

子供はつまらなそうな顔をして外へかけ出した。

こうした場面はお宅に見られませんか。
これをつまらない日常茶飯事と宥過すことは教育上
誠に重要な問題なのであります。

子供とゆう者は大人におよびゆつかぬ知識慾に燃え
ているとゆうことを先ず知つておいて下さい。どうし
てなの？ なせなの？ と所謂くどききするものなの
です。その時前の母親のように満足な解答をみえない
ばかりか、かえつて迷惑がつて子供のほげしい慾望を

-(4)-

頭から押さつてしまつたらどうでしょう。こうした事が度
重なれば、子供の真理探求への意欲は漸次うすらぎ、
遂には勉強きらいになつていつてしまいます。

ではこうした場合どう処理したらよいでしょうか。
先ずどんな簡単なことながらでもよく子供の納得のいく
よう説明してやることです。この場合大人の考えでお
しつけることは絶対避けなければいけません。もし自
分でわからなかつたら、正直に分らないと答えなさい。
い。そしてそれは大変よい問題だからこの本でしらべ
てごらん。こうしてやつてみなさい。とゆうように解
決の糸口を教えてやるか、方法を知らせて、自分の力
で解決させるよう仕向けるのがよい導き方でありませ
ん。

この場合先生や学校の施設(圖書とか模型とか)を
利用することは、大変能率的です。尚親も子供と共に
勉強出来たら理想的でしょう。こうして解決出来たこ
とがらは全く身についたものとなり、その喜びは次の
課題解決への大きな原動力となるのです。

子供はくどききによつて知識を探め勉強の態度が養
われすく／＼と伸びて行くのです。私達は常に温かい
心をもちて双葉の中から育くんできたいものです。

新制中学校建設委員会の誕生

中学校々舎建設問題の具体化に伴い、村はこれが実
施上委員会の必要を認め、八月十三日左の通り委員を
委嘱し、同十六日第一回委員会を開いて、正副委員長
の外、委員中より更に実行委員を選任した。

- 委員長 藤沢勘兵衛 副委員長 岡田節二 同 飯
島吉光 「委員」 ○酒井晋 酒井助衛 小林喜一
小倉松三郎 ○平島作太郎 飯島重夫 ○久保田崇
大久保四郎三郎 野部哲太郎 片岡弥一郎 ○市村徳
夫 豊島享 豊島一之丞 五頭良雄 ○根本一之 ○
酒井作衛 ○本橋徳治 ○飯島竹次郎 ○宮本直太郎
○久保田健一、○酒井新一 ○坂本久弥 ○沼尻正
○片岡考一 ○豊島正雄 ○柳沢春一、○沼尻久好
○片岡秀康 沼尻謙次郎 ○久松誠 諸川辰雄 官
島正 ○久保田一郎 沼尻正男、岩瀬芳一郎 沼野武
男 黒田三郎 岩瀬弘 沼尻四郎 酒井きよ ○塚本
清 ○藤沢達 ○酒井喜市 菊池民雄 酒井治郎 ○
沼尻軍一、○久松信一、久松茂 根本嘉平治 猪俣三
郎 根本養三、酒井嘉幸 沼尻昌雄 沼尻弘(○印は
実行委員)



御挨拶

PTA会長 酒井きよ

会員の皆様には、このお暑さもおおいといなく御多忙な毎日をお子様方の家庭生活指導に又 お隣に御苦勞なされていらつしやることと御推察致します。私達のPTAも皆様の精神的、物質的な力強い御協力と御援助のおかげによりまして、すくくと成長しつつあることは、皆様と共に心からよろこび合いたいと存じます。子供達の生活を幸福にすることは親としての念願であると共に社会人としての義務で御座居ます。

子供達にとつて、最も楽しい夏休み私達親にとつては、なかなかの重荷で御座居ます。この夏休を迎えるに当つても、学校とPTA 子供会 子供会後援会が一体となつて対策を協議し家庭生活中心に子供のくらしが移つても楽しく有意義に過せる様計画いたしました。特にお母さん方は育児教育については、大なる責任があると口お考えでしょうが、實際家庭的職以外は学校に一任しているのが現状ではないでしょうか。それ程一般家庭は家業に雑務に忙殺されて自分の教

養を高める時間と余裕のゆち合せがございません。

その結果時代から選れて子供達からは、話相手、相談相手として極めて、不満足な存在になりつゝ、あります。これでは子供の健康も教育もほんものにすることは出来ません。青少年の問題が社会問題として大きく取りあげられている現在深く反省しなければならぬと思ひます。子供のために楽しく幼く母の姿に無言の中に子供の心に強く焼きつけられます。子供達のために、よりよい社会環境を構成することが重要な一つで御座居ましょう。そのためには学校そのものが地域社会の要望に応えられるように設備されことも大切なことです。皆様も御承知の通り小学校々舎の老朽に加えて教室の不足、まことに気の毒な状態であり、更に小中学校が併設されております関係上児童生徒の教育に種々の支障を求しております。これが解決のために父兄の皆様から独立中学校舎建築の聲が高められ、村民の輿論となり、遂には村当局と村議会が一体となつて校舎建築の具体化を図られ実行にうつされることになりましたことは、私達として又村民の一人として此の上もない喜びでございます。私達はあらゆる犠牲を忍

-(6)-

んで子供達が楽しく、よろこんで勉強出来る様な学校が一日も早く建築される様期待して止みません。平和な、そして文化豊かな栄村建設のためには、私達の現在の犠牲や苦勞は何んでもございませぬ。教育の計画は細密でしかる遠大な構想で行われず事が肝要と存じます。子供達の幸福の為皆様の御協力をお願い致します。



栄中学校歩みの一端

栄中学校

県教育委員会より実験学校の指定をうけて、三年目になります。その間教育委員会及茨大教育学部の諸先生の指導のもとに新教育を實踐して参りました。幾多の疑問は、新治出張所 指導課 茨大教育学部の諸先生に原理的に解明して頂き、実践上向に力強い限りであります。村当局 PTAを中心に村民各位の御協力は、栄村ならではと思はれる数々、本校職員を感奮興起させるに余りあるものがございませぬ。昔から、打算、利益を超越した職人気質と言言葉があります。こうした精神を以てこそ、偉れた仕事が成就するものと

思ひます。本校職員も村民各位の御協力には、こうした精神を以て、御期待に副いたいと努力致して居ます。実験学校としての研究課題であります学校図書館の運営を中心に教育致し居ります。本校の生徒が明るく朗らかに、読書により伸びてゆくことを兼しみに、教育界に未開拓な学校図書館の運営の難問題の解決に乗り出している次第です。私共は子供達が学校図書館を中心とした学習態度が身につきましたならば、従来の様に学校卒業と共に読書や研究とお別れすることなく、職業の研究に、教養の向上に、娯樂のためにも必ずや図書館に親まれ、その結果として、科学的な職業の経営、合理的な家庭生活となり、民主的な、明るい気分が村のすみずみにまで、満ちあふれ、名実共に文化村栄が実現されますことを信じて更に努力をにつけて、より充実した学校と致したいと念願致して居ります。

一、努力目標

1. 健康の保持増進を図る
本校は通学距離に恵れていること、運動場が狭いこと、研究会が多いこと、などから見て、身体の鍛錬の機

会が少ない様に思いますが、特に努力して居ります

2 徳性と高い知性による自律的生活の向上を図る
徳性、知性共に現在社会に重要な事でありますので、
学校生活全体を通して、徳性を養い、知性に基ずいた
道徳的判断によつて高い徳性が生れますが、そして自
分の考えで正しく判断して行動し、その行動には十分
な責任を持ち得る人間を養いたいと考えています。

3 勤労愛好の精神を高揚したい。
生活の向上は勤労にあることを自覚させ、栄村の今日
あるは、勤労より生れた事を理解させて、勤労をいと
い、労働を卑み、野良着の父母の姿をいとう風潮を防
止すると共に、勤労の尊さを眞実に理解させて、心か
ら、勤労を愛する子供にしたい。

以上の三点を、村の実態から、子供達の現実の姿よ
り眺めて特に努力すべき点だと考えております。

二、学習指導上の努力点

1. 学校図書館

人間として、生徒として最も望ましい「はたらき」は
自発活動であります。この「はたらき」は教師の強制
や父兄の強権で生れるものではなく「まわり」からの

刺激や「さそい」によつて起るのです。新しい教育で

はこの様な状態が起るように、子供の「まわり」を整
える事が大切になつて参りました。知識そのものより
むしろその知識を得るまでの「はたらき」を重く見ます。

何故なら知識は無限で人間の記憶には限度があります
必要にこたえて、知識を獲得する方法を会得するなら
び一生涯自己の発展は続けられます。記憶しておく集
積された知識の分量も大切ですが、それよりも、必要
に即して知識を得ることが出来る方法が大切でありま
す。その為には、学校の学習で豊富な参考書を、なか
だちとして、学習させることが重要であります。

過去の文化をうけついで、更に未来に発展しようと
する私達にとり、文化を攝取する方法として、読みと
る技術を身につけ、早くそして豊富に読む能力を持つ
ことは、発展して、やむことを知らない現代生活にと
つて最も大切なことでもあります。一昨年度は辞書類の
様な基本図書を購入しましたが、昨年度は生徒の希望
により、生徒の読みものを購入しました。教科書も
読めない程学習に無関心な生徒が、読書欲が燃まして
三ヶ月間に七冊の本が読破され、読後の感想も書

(8)

られる様になりました。又夏休作品展に、入賞する様
な作品も作成する様になりました。これは固固
から刺戟された。自発活動が、読みたい一心で、自分
の持つ最善の努力を傾注したよい例だと思ひます。教
科書の読めない者が七冊、巻千数百頁を読破した原動
力は、自らよみたいという自発活動から生れた意欲の
力だと思ひます。一度読書の妙味と自分の能力を自覚
した生徒は次々と読み続け、教科の学習にも興味と自
信を持つて参りました。この生徒は、三年の女生徒で
すが、この様に各生徒が発達して参つて居ります。こ
の様に大切な学校図書館の教育が終戦前までの学校教
育に重視されなかつたことは洵に惜しいことだと思ひ
ます。戦後は、学校図書館の設備は法律で設置する様
定められて居りますが、全国で本県が最下位の線にあ
りますことは、残念なことです。茲に栄村小中学校の
学校図書館の研究が期待されて居る所以であります。
学校図書館は、図書の実質が生命であります。然し
図書の値段も高く、費用の点に悩みがありますが冠婚
葬祭の冗費の節約による図書購入費の寄贈、個人蔵書
の寄贈が次第に増加して参りまして生徒職員一同感謝

致して居ります。今後の学校教育上心臓部とも申すべ
き学校図書館の充実の爲今後共御支援の程お願します

2 生徒の学習困難とその指導

普通の生徒で、普通の成長発達を期待されるのに、満
足な成績が得られないのは、どこかに原因がある書で
す。その原因を研究して、それを除去し、生徒各自の
生来の能力に応じた満足な学習が修められる程、努力
致しますことは、父兄及教師の義務だと思ひます。

そこで学校では、父兄参観日、家庭訪問等を実施して
おります。よく出来る子供の父兄は参観に参りますが
来て欲しい父兄が参りません。子供が出来ないので恥
しいと申しますが、これは子供を愛する道ではなく、
子供の教育に真剣でないと思ひます。成績の悪いの
には必らず原因があるので、真剣に教師と共に
原因について研究して、其の治療法を、対策を考えよ
うではありませんか、勉強の出来ない原因にはどんな
ものがあるでしょうか。次に挙げて見ますから、家庭
に於いては、よく研究して頂き度いと思ひます。

①身体的な原因

①遺伝による身体的、精神的欠陥 ②幼時における病

気、傷害、の病氣、不具、の栄養不良、の悪い性的習慣、の感覚器官の欠陥、の虚弱體質等が挙げられます。以上を見ますと、とうにもならないものと、医学的治療、可能のものとがあることがお分りと思えます。

どうにもならない原因の場合、叱つたり、軽蔑した言葉は絶対に慎んで、その能力に応じた要求と将来の対策を考えるべきだと思います。今まで多い例としては近視、聴力障害、蓄膿症、蛔虫、偏食から来る栄養不良などがありますので、よく注意して観察して下さい。

(2) 心理的原因

の精神能力の欠陥、の興味がない、の学習の習慣態度が悪い、の叱られてばかりいて、自信を失つてしまつたもの、の心におちつきがない、の知能の発達が遅れている、のなまけもの、の神経過敏、の教師に対する反感、の教科のすききらい、の基礎学力の不足等ありますが、これ等の原因にはもつと根本的な原因があります。この心理的な原因で学業の不振の例が最も多いように思います。

(3) 環境的原因

の家庭の原因 A 学校に対する無関心と非協力

(10)

原因は除かれてはいる現在毎に向土して居りますので心配はないと思えます。父兄の要求する基礎学力は決して軽視してはならないと思えます。図書館の図書が読めないための図書の利用が出来ないという悲しむべき事実から考えても、読み、書きは基礎学力であります。現在こうした基礎学力の養成のため特別の時間を設けて指導して居ります。

(2) 能力差に応じた指導

個人能力をよく調べ、その能力に応じた適正な指導に努力して居ります。学習は必要を感じ、その必要をみたす意に努力し、その結果として、満足する。このすじみちが学習でありますから、学習は個人的なものです。従つて自分の能力に応じた分量と質の仕事をするのが、最も個人にとつても、社会にとつても幸福なのであります。これに基づいて将来の進路の指導が大切になります。進学も以上の点からよくお考えになつて生徒の重荷、苦痛でない進路を開いてやるのが父兄と教師、の深い親心と思えます。

イギリスでは父兄も、子供も、自分の能力を知つて進学については、無理はしないということでした。

B貧困 C不和 D子供に対する過度の要求 E文化的衝動的でない。F家事の手伝いに使いすぎる。Gきびしい躰か、甘やかし過ぎる。

の学校に原因ある場合 A施設が悪い・B教師の質が悪い C課外活動の負担が過重である。D学級の生徒数が多過ぎる。E教師が生徒に対して不公平である。の社会に原因ある場合 A学校のまわりが悪い。B村民が教育に対して関心が低い。C望ましくない隣り近所 D友人の影響 E戸外での遊びが多過ぎる。

以上の様に子供の学業成績のじやまものは多いものですから、成績が悪い。子供の頭腦が悪いと悲観する前に子供のために教師と真剣にその原因につき、研究なさつて子供の素質を十分に伸ばしてあげて下さい。

父兄参観日 家庭訪問をこの様な意味から十分利用して頂きます。

3 学習指導の努力点

(1) 基礎学力の養成
学力とか、基礎学力とか、いろいろ議論がありますが父兄の要望する学力、即ち 読み、書き、計算は戦前より落ちていることは事実であります。然しその主な

実社会で高等教育を求める習慣がなく、多くの場合にむしろ実地の経験が重じられ、就職後も、その人の実力によつて上の地位に進むことが出来るので、どんな学校を卒業したかよりも、どれだけ仕事が出来るかに重きが置かれているということです。早くこの様な考えの社会にならないと思えます。個人差に応じた指導、個性を重んじた教育が真に実行されるためには、父兄の理解と協力が根本と思えます。

三 道徳教育の努力点

よく父兄から、修身を学校で教えないから、子供の行儀が悪くなつたとおつしやられますがこれは別な原因ではないでしょうか。例えば親孝行を教えたから親孝行になるのでしょうか。人間はそんな簡単なものではないと思えます。人倫の道も分らない未開の地や二千年の昔ならいざ知らず、現在の様な文化をもつた社会では従来のような修身科で、人間が出来上がるとは考えられません。中学一年生の社会科で家庭の勉強が出て参りまして、父の働き母の働き、親の愛情の問題が家庭の実際について調査し、図表にしました。母の睡眠時間が最も短いことが分りまして生徒は母の働

き恩恵の深いことを知り、父親の職業のための労働時間を知って有難さが分るといったいき方で親孝行しようとする心が自然に身につくのであります。この様な指導の仕方では道徳教育を致して居ります。然し年令が長手に従つて、程度の高い道徳的判断の基礎となる知識を授ける必要がある様に思ひます。本校で訂次の目標を立て、学校生活全体で、各教科で、あらゆる機会に指導して居ります。

落つぎのある礼儀正しい、何事にも真剣で辛棒強い、責任感が強く、よく他人と協力してゆける。自主独立心が強い。よく物、公共物を大切に、決して他人に迷惑をかけない。

以上の目標をあらゆる生活の場で、指導する。学校生活の設計は、生徒自ら計画して営んでいくようにしむける。全職員が同一歩調で、指導する。家庭や地域と密接な連絡をして指導する。

教師自身は、道徳教育は徳化であることを深く考え、公平豊かな愛情を生徒にそ、いで、寛大な中にも教師としての權威のひらめきを生徒に感じさせ得る教師にならうとしています。常に生徒と共に働き、言葉で教

えるよりは体で教える教師でありたいと念願して居ます。母の蟹が子蟹に向つて、横に歩くのは、みにくいから、真直ぐに歩くと教えながら、自分は相変らず横に歩いたという物語りがありますが、この母蟹の失敗を私達は手本にしたいと思つて居ります。

四 職業家庭科について

中学教育の目標が三つありますが、その一つに社会に必要な職業について、そのもとになる知識と技能と勤労を大切にする態度および、個性に応じて、将来すすむ道を選択する能力を養うという目標があります。この目標が新旧中学校のちがいを示している点であると思ひます。この目標を達成するために、職業家庭科が設けられて、生徒を指導して居ります。この教科は仕事を中心として指導するのですが、手足を動かして物というだけではなくて、仕事をすることが、個人にとつても、社会にとつても、どんな意義があるかを自覚して仕事に向い、しかもそれをいつそうよくいつそう能率的にしかか、協力的になしとげるように工夫したり、更に興味のあるものについては、深く研究しながら技術を身につけるように指導して居ります。

(12)

従来の小学校高等科の農業、家事、裁縫との相違点は、中学校の生徒位の年令では将来の進路や将来の職業もまだ決つていない場合が多く、学年が進むにつれて、具体的に考えられる様になる程度であります。きまつたと思つても、いつ変わるか分らないし、又更に今日の社会で、自分の進みたいと思つところへ誰かが行けるとは限らない。従つて学校では特定の職業を定めてそれに必要な知識や技術だけを学習させることは適当でないで、職業の各方面の分野の仕事を経験させたり、それに関連している職業や仕事に対する理解を深めたり、自分の能力を考えたり、自分の家庭の事情から将来の職業を考えたりする機会をあてて指導して居ります。従つて、従来の様に農具だけ、裁縫用具だけの設備では満足した指導は出来ません。先生も、農業の先生と裁縫の先生では職業家庭科は指導出来ません。農工商裁縫調理看護保育といった方面の先生が必要になつて参ります。然し分量的には、農村ですから農業が中心に女子には和裁洋裁調理が中心になります。独立校舎の方では職業家庭科に十分な施設をして頂いて機械の音がきこえ、物を生産するゆきの中に人間が

新しく育成されるのだと信じます。中学校が以前の中学校の様に考えられたり、小学校の高等科のように考えられたりして、その性格がはつきりしないやうですが、私共は中学校の職業家庭科の施設と指導力が十全になれば新制中学校の性格が明瞭になると思ひます。是非其父兄の協力を得て完全な職業家庭科の教育が出来よう念願して居ります。

五 父母のための教育用語

父兄からよく質問される教育上の用語を紙面の許す限り述べてみたいと思ひます。

カリキュラム(学校で指導する内容をい、ます)

個性(生れつきの素質に(内側にあるもの)が環境(外側の力)によつて作りあげられた他人のところがたその人独自のものを個性とい、ます。その他人とちがつた秀れた面を伸ばす事を個性を伸ばすとい、ます)

單元(学習させる内容のまとまりを意味しています)

PTA(父母と先生の会の事で、学校教育を先生だけに委せ切つておかないで生徒の父母が積極的に協力し援助して子供の教育をより完全になしとげるための組織でアメリカより昭和二十二年に紹介された)文責市村

子供を愛せ

塚本 清

初秋と言え残暑が続いています。

会員の皆さんには、毎日御多忙の日が続いて増産に御はげみの事と存じます。

私が今年の総会で皆様の御推薦を受け会長の職を汚す事になりましたが、もとより届かない者でありますので御援助の程をお願いいたします。

会の事業として公民館報委員会の御協力により、教育特報第二号を発刊することになりました。此の特報号を通じて学校と家庭との御意見を交流したいと思えます。

子弟の教育はどむづかしいことばありません。社会生活が複雑化するほど子供の世界と、大人の世界とに矛盾が生じてくると思われます。この矛盾を調整して良き環境の下に教育事業を進展させることが、私共父兄の責務であると思えば、家庭を純化して学校教育に協力して行くことが青少年の不良化を防ぐ大きな力となることと存じます。

〔13〕

家庭が円満で子供達の心の琴線にふれる眞の愛情を以て導けば子供の順けも自然とよくなりませう。

荒々しい言葉遣いつきそのな煩で悩んでばかりだと黒性の子供になるでしょう。

子供に愛される父さん、親しまれる母さんとなることが大切だと思います。

すべての事業もお互い協力し和解決し努力するときに完成するのです。

この意味で愛はすべてを解決すると断言出来ます。会員の皆様の御祈りのため立派な家庭を心豊かな住い形をつくつてあげようではありませんか

時節柄皆様の健康を御祈りして切に御協力を御願いたします。

中学生の特徴

肉体的発達急激で、顔つきに子供っぽさが消えて来ます。従順さが欠けて、りくつぽく、不平をいつたり、人を批難する態度(以下一五頁へ)

〔14〕



校医生活七年目を迎えて

岡田 校医

昭和二十一年四月十三日、桜花に迎えられて敗戦の身を栄村にみい出して、すでに六年は過ぎ去りました現在、当村の小中学校校医としての今迄の生徒の学校衛生についてお話ししたいと思います。

当村学校に行つて驚いた事は、生徒の間に非常にトラコーマが沢山ある事だす。「よし」これから先ず治療しようと思ひ致しまして、患者の発見に努めました。幸い当村には先輩で又その道の専向の中村先生が居りますので先生に治療を御願ひ致しまして今日に致りました。当時小学生二十二名、中学生十八名の患者がありました。内訳は小学生男が十三名、女が九名、中学生は男が七名、女が十一名でした。その翌年は小学生八名、中学生四名と減少し、次いで二十三年は小学生三名、中学生二名と減少し、二十四年、には小中学生とも一名のトラコーマ患者が発見出来ませんでした。所が本年になつて二名のトラコーマ患者を発見しました。それでその伝染経路を調べたらいすれも都会に

行つて居る兄弟があつてその人が帰郷した時に伝染

した事がわかりましたので安心しました。この様に一

つの病気を治療するには、非常な努力と、忍耐を必

要とします。特に中村先生の努力に感謝します。次に

農村につきものの蛔虫症です。当時には相当の蛔虫を

腹中に保有して居る人があつて、小中学生を対

稱として検便したら予想外に少なかつたのです。率は

小学生十八%、中学生七%、という成績でした。一寸

驚きました。然し、あとになつて村内の実情がわかつ

て来て、なる程とうなすけました。それは当村の野菜

は化学肥料で、下肥を使用しないと云う事です。成程

こ、に原因があつたのかと喜びが胸一ひいにひろがり

ました。先生、父兄の熱心な後援により「虫下し」

「サントニン」を購入し保有者に、月二回服用させて、

二十四年は、小学生六%、中学生〇・八%になりました。

現在では殆んど蛔虫卵を保有して居る者がないと云

ふ状態です。全国農村の学校を調べても、現在の当村

学校は優秀です。これからは是非、家庭の人々で御注

意下さいまして蛔虫卵の侵入を防いでいたゞきたいと

思います。

さて次に、現在ゆつとも問題となつて居る学校給食の問題です。米年あたりからこれゆなくなる様なことが言はれて居りますが、いまだはつきりしません。たゞ、給食が、敗戦の我々日本人の児童に、如何に大なる影響を与えたかといふと、皆称、御存知の様に生徒の体格が向上した事です。又生徒の副食物等の、好き嫌いが少なくなつた事です。これが体育方面ばかりでなく学向方面に徐々に現れて来た事です。その当時は、効果がわからなくて、現在になつて現れて来たと言ふ事、この人々が大人になつて、活動するかと思ひますと、今から楽しみます。皆称も今から御期待下さい。

色々、とりとめぬ事を書きましたが、要は生徒の健康を向上させる事です。この意味で私は学校医の校庭進出と言ふ事を叫び、且つ実行して来ました。

一例をあつれば学校に行く、朝礼の時に生徒の様子を見る。或いは体操の時間に動作を眺めると言ふ様に次から次へと眺めて居りますと、ひとりでに生徒の体質、動作等がわかり大変参考になります。又生徒と校医が友達になる、これが一番よいと思ひます。いかな

る時でゆ、なんでも質問が出来る、又それにいつでも解答すると言ふ事 等、

本年になつて、中学生の体格検査を四月にやつたのです。その時に女生徒に、四名ばかり脊柱のまがつて居る者を発見しました。これは大変とあわてまして調査致しますと、そのまがつて居る方に仲のよい友達か居つたと言ふ事です。しらないです。ごしてしまへばそれまでですが、こゝにはじめて学校衛生の大切な事がわかつて来ます。このまがつた子供達は、解決策として早速その席を変え、学業中心、体育中心、機会ある如に様子を見て居つて治して居ります。

又機械体操をやつて居りまして現在では殆んどよくなりました。家庭の皆さん、子供の体にもう一度目を向けて下さい。

(一三頁より)を示して、言葉なども乱暴になつて、親との商柄にもへだたりが出来てくる。友達との生活が難くなつて、親友が出来、親兄弟よりも親密になつて何事も打ち明け合うようになります。(中学校)

青年学級年間計画

新治郡栄村

名 稱	青年学級	設置者	栄村公民館長
向 設	栄村公民館	開設の日	昭和廿七年十一月十日
場 所		管理者	栄村公民館青年学級長
研究題目	地域産業に結着する産業知識の増進		
本年度運営構想並に研究遂行の具体的計画	<p>一、開設期間 自十一月至三月(三月修業式後引続して向講とみなし公民館年間計画中の講習講演会に出席する)</p> <p>二、予定時間 年間二〇〇時(公民館青年学級講習部講習講演会に出席する時数も含む)</p> <p>三、受講生 新制中学卒業より二十五歳までを主体とする</p> <p>前(起)期四年 後期四年</p> <p>前年度に同じ、但し自由課程にホームプロジェクトを加えてグループ毎に計画構築し講師の巡回指導を受ける。女子は主として生活改善の向講を、男子は主として作物栽培に就て</p> <p>1、公民館代表 2、指導者代表 4、生徒代表 6、父兄代表 4</p> <p>2、ホームルームの充實</p> <p>3、生徒協議会</p> <p>4、教育課程構成委員会</p> <p>八、公民館図書館施設の充実と活用(図書館図書購入費五〇〇〇〇)</p> <p>2、財政(村費)経費総額八四八五〇円</p> <p>(講話法を改善し) 左記の指導法を取り入れる)</p> <p>1、分館指導 2、自学自習(図書館利用) 3、問題学習 4、実習 5、討議法 6、講話法</p>		
年度予算	昭和二十七年	項 目	金 額
旅費	講師手当	一般事業費	八四、八五〇
		印刷製本費	六、〇〇〇
		光熱及水料費	八、六〇〇
		会場費	一
		物品費	二五〇
		教材費	三、〇〇〇
		食料費	三、〇〇〇
		その他	五、〇〇〇
		合計	八四、八五〇

期設の 向	自昭和二十五年十月至昭和二十八年三月 開設日数		七〇日	計	運営委員会の構成
	男	女			
学級編	前期	四〇	三〇	七〇	村長 公民館長 同 副館長 審議会委員長 中学校長 小学校長 青年部長 同 副部長 二名 公民館主事 前期生徒代表 五名 後期生徒代表 五名
成並に生 徒数	後期	四五	一五	六〇	
	吉瀬分館	一七	一三	三〇	
	合計	一〇二	五八	一六〇	
科目	講師の氏名	学習方法	備考		
国語	中学校長 主任講師 楢保三郎	テキスト使用	主任講師の外四名 村内学級経験者が担任		
社会	中学校教頭 主任講師 市村芳男	講義及討議	主任講師の外二名 村長、館長その他の講師		
数学	村固定資産 評議員 沼尻 弘	講義及実習	主任講師に小学校教諭		
球算	小学校長 根本 養三	講義及実習	主任講師に小学校教諭		
農業	中学校教諭 松井 恭夫	講義及実習 グループ研究	主任講師の外 特級農家		
調理	中学校教諭 石田 良子	理論 実習	主任講師の外 村内特技者		
衛生	村医 岡田 久	講義 実地研究	主任講師の外 村内医師保健婦		
理科	小学校教頭 鷹巣 清	講義 実地研究	主任講師を中心として 村内特技者 中学校教諭 主任講師の外 学級経験者が担任		
運動	中学校教諭 栗栖 三男	実地研究			

昭和二十六年年度の反省
 二十六年度に於ては生徒の出席に重点をおき研究討議の点に缺けていた。又講師を得る事に力を注ぎ事前に講師の委嘱をした為教科時間の設定上多少の無理があつたので本年度に於ては主任講師の意見によつてカリキュラムを固めて講師の委嘱をなす。



家庭に於ける子供の 二七つの問題

小学校

恐らく子供の教育ほど難しいものは無いかも知れません。勉強をしない子、小遣いばかり使う子等々、親さんの日頃お困りになつている問題から次の七つを選んで御参考までに記して見たいと思います。

(一) 勉強しないで困る子供をどうしたらよいか

これは一番よくきく問題で、親さん方色々苦心しておられること存じますが、勉強を好まないのには何かしら理由や原因がひそんでいてという事を考えてみる必要があると思います。この原因や理由をとり除かない限り、この問題は容易に解決出来ないものであります。原因として考えられるものには沢山ありますが例をあげますと、生れつき知能が劣る、難産、乳幼時の大病、身体上の障害(目鼻耳等)、長尺席による学習の空白、だれた学級空気、遊び友達の善悪、担任との折合い、自分は出来ない子だという劣等感、其他等これ等が種々にからみ合つて、不勉強の原因をなしてい

るのですから「お前は不勉強だ」とか「出来が悪い」とか言つて子供だけを責めるのは少し可愛想な事です。受持に相談したり、お医者にみて貰つたり、或は直接子供に尋ねて原因となるものをひき出すことが先決問題でなければなりません。尚其の後の指導については充分担任と協力する事は勿論ですが、少しでも机に向つて居る事があつたらほめることだと思ひます。

ほめられ、ば誰しも嬉しいものですから次第に机に向う日も多くなつていくでしょう。かりに「珍しく勉強しているね、あしたは雨だ」と言つた皮肉をあげせる事は絶対に慎しまねばなりません。これでは折角出た芽をつみとる結果になるのですから、それに教える際はあせらず子供と一つ心になつて優しく面倒みてあげたいものです。決して叱りつけてはなりません。

(二) 漫画を好んで他の本を読まない子をどうするか

子供は実に漫画を好みます。過日調査した結果をみても明らかで読書量の最上位を示しております。どうしてこうも好むのか調べて見ますと、(1)字がろくに読めないで内容がわかる。(2)つとり早く早く筋がつかぬ次々に奇想天外な事件が展開する。(3)登場する人物

動物等が誠に滑けいで、ユーモアを好む児童心理に合う。④空想的 想像的な心理をもつ子供にびつたりする等がその主な理由でした。大人がみては愉快になるものがあるのですから無理はありません。然しながら子供の読書がすべてこの漫画に限られることは決して好ましいものではありません。なぜなら漫画は多く子供の内的生長をもちたらず様な内容をもつていないからです。むしろ子供の異常な興味や興奮を刺戟する場合が少なくありません。例えばキマントムの、チャムバラもの、怪談もの等がこれでしょう。低学年のまだまだよく字の読めない子には本に親しむ第一歩として、明るい健康な内容をもつ漫画を与える事は差つかえありませんが、学年の進むにつれて名作物語や科学読物等に親しむ様に、導くことが意図されなければなりません。こ、にも良書を集めた学校図書館の意義があるわけで学校では常に解放し、又一週一時間は担任の指導のもとに図書館で自由な読書とさせて、子供の読書の領域を拡げる様にしむけております。又家庭でも漫画を速読ける前に良書を買つてやる様にして頂きたい。

(三) 宿題をみてやるべきどのような態度がよいか

まず学習がどの程度進んでいるか、わからなければなりません。父兄参観日に担任の指導をみたり、話をきいたり或は又子供の勉強相手になつて教科書の内容を理解したりすることも助けになりましょう。そして温かい眼で勉強をみまわり喜んで相談にのつてやる事です。昔習った計算法を教えて子供の頭を混乱させ、出来ないといつて叱ることは間々ある事ですが子供は並々あわておびえて出来る問題も間違ひ、度重れば却つて家で教つたり学んだりする事を嫌う様になるものです。こんな簡単な事が？と大人に思われる事も子供にとつては理解し難い場合がよくあるものです。

親子子供と共に考えてやり、問題をとくいとぐちや暗示を与えて協力してやる態度がほしいと思います。よく宿題をお家の方がやつてしまふ場合を見受けますがこれでは子供が勉強したのか、家の人が勉強したのかわからなくなりますが、面倒がらずによくのみ込めるまで子供に考えさせ得心させ、作らせる様にしたいものです。その場合真剣になる余り叱つたり、た、いたりする事のいけない事は、申上げた通りです。

(四) 流行歌を歌い 学校で習う歌は余り歌わないが

どうしたものだらう。流行歌はラジオやレコード、周囲の人々から絶えず耳に流れ込み、好ましくない影響を与えている事は確かですが、ロビンソンクルーソーの様に絶海の孤島にでも住まない限り、この流行歌から子供を隔離する事は出来ません。それかと言つて甘つたるい恋の歌や卑猥な歌を純真な子供達に歌わせて傍観している事も考えなければなりません。この矛盾の解決は難しいです。対策としてはまずよい子供の音楽を数多く聴かせ歌わせて、音楽に対する鑑賞力を培つてやる事であると思ひます。その為には学校としては音楽の時間は勿論、あらゆる機会をとらへてレコードなりラジオ等を利用して良い音楽に親しませる必要があります。又家庭でも大人本位のラジオ聴取を反省し子供のそうした音楽放送もうるさがらずに一緒に聴いてやる様な心づかいがほしいと思ひます。

(五) ことばづかいが粗野で困る、どうしたらよいか
戦後の風潮の影響が子供達の話言葉に見出されることとがあります。やくさや不良の用語になつてゐる「しけてらあ」「しやり食つたか」の類がそれです。「ことば口人を作る」とも言はれますので、この様な

下劣な言葉は是非とも子供達の間から拵拭しなければなりません。次に目上や来客に対する言葉づかいが出来ない事も事実で、先生との話がるで友達同志の話の様になげやりです。これは大いに学校の責任でもあります。正しい話言葉が使われられる様、学校の課題としても努力したいと考えております。御家庭でも粗野なことばを耳にする都度、なおす様にお願ひいたします。学校職員の話言葉づかいは勿論、家庭に於いての皆様の言葉も強い影響を常に子供達に与えておりますから、充分注意したいと思ひます。

(六) 小遣いの与へ方はどうすればよいか

子供の要求するまゝに与える事は浪費癖をつけることになり、余り節約させるとひわくれたり、盗みを覚えたりすることがありますからその加減が難かしいです。まず低学年でしたら一ヶ月の小遣高を適当に決めておいて、親が加減しながら与え、高学年になれば、思い切つて一ヶ月分の小遣いを子供に渡し、予算を立てさせて使わせるのがよいと思ひます。尚小さい子にはよくねだつて泣く子があります。「泣く子と地頭にはかてない」のたとえにある様に多くは泣きの一手にせめ

られて小遣いをやつてしるのですが、これが繰返されること子供は泣くことを要求貫徹の戦術とさとして、いつでもこの手を使う様になるのです。駄々つ子といわれるのがこれで大抵の親はなやまされるのですが考えれば駄々つ子も結局親の弱さが生んだのに外なりません。「さつきお小遣いをやつたばかりだから」とことわつたならば、泣いてゆわめてゆとり合わないきつぱりした態度をとる事です。これを数回繰返せば子供の方でも泣戦術の効果のない事をさとして駄々をこねなくなるでしょう。躰は子供に動かされては出来ません。はつきりとした躰の方針をもつて子供と根気比べをする覚悟で当る事が最も大切な「こつ」であると思います。

七、家事の手伝いはどの様にさせたらよいか

家族の手が多く、子供達の手伝う余地のない様な家でも、子供の出来る仕事は沢山あります。手伝いは単に仕事のたしになるばかりでなく、人間として成長するためのよい機会でもあります。つまり勤労の精神を育てたり家族は協力せねばならないという家族の一員としての生活態度を感得していく事になるからです。

ですから、子供の年齢・能力等によつて余り負担過重にならない程度に各々責任をもつて行わせる事は大変良い家庭教育であります。その際、子供が積極的に仕事にとりかゝる様ないたわりと励ましの態度でありたいと仕事のあとよく出来た点を見つけてほめるように心掛ける事がよいと思います。

次に手伝いとお駄賃の事ですが、よく「駄賃これだけやるからこれをやつてくれ」といつた頼み方をすることを覚えておきます。これも一度や二度ならよいでしょうが度々こうした使い方をすれば、手伝いや使いは駄賃をもらえぬものと考へ、駄賃がない、とよるこんでやらない様な気持をもたせてしまいます。手伝いと言ふ言葉の内容は本来奉仕的協力的好意的なものですから、駄賃を貰う事を当然と考へたり、駄賃が貰えるから手伝うと言ふ事は、即ち手伝いの性格から離れたものといつてもよい、わけです。お小遣いは貰えなくともお家が忙しいから姉さんが忙しいからと言つた奉仕的な家族協同の精神から喜んで手伝う子になる様に導く事を極めて肝心な家庭教育であると思ひます。以上要を得ませんでした。が参考になれば幸いです。

中学校建築問題の経過

現在の小学校は、明治三十六年の建築で、既に腐朽破損甚しく、その処置については村当局、学校理事者共々苦勞の種子であり、また一方には狭隘な現在の構内に小中学校を併置して置くことの可否もまた識者間の論点であつた。村に於ても本年二月秘かにこれが対策について調査に着手し、隣接村と共同にて組合立中学校建設の構想のもとに、先ず二月四日栗原村、三月五日九重村を訪問して両村当局と会談したのであつたが結局その結果を綜合すれば時機尚早との結論に到達せざるを得なかつた。三月十一日、小中学校PTAは常任委員会を開いて小学校増築を村に要請する件を可決し、同月二十日村当局と懇談する所あり、五月六日同委員会は小学校増築か、中学校の独立かの問題について検討し根本嘉平治外三名の実行委員をあげ再び村当局と折衝する所があつた。五月廿一日村は本問題につき村議会議員PTA役員の合同会議を開催し六月九日更に常設委員を加へ合議の結果中学校独立

の件を採択し、将来及現在の種々の状況下より判断して位置の椽桶地を西坪台に予定し、用地委員を定め該当土地の關係者に折衝を開始すると共に、一面七月廿六日村議会議を閉会して取敢えず五百十五万円の新築費追加予算を議決した。是より先き、その資材として大房所在の国有家屋一棟拂下出願中であつたが八月十三日これに対して拂下許可の指令に接した。建築物の設計は上田次郎氏に委嘱し目下立案中である。

これを要するに、本工事の完成については村財政の現状より見る時、村民各位の特に絶大なる支援を必要とするものであることを附加して擧筆する(編輯室)

「さかえ」 第三巻第二十三号

昭和廿五年十一月三日 創刊
昭和廿七年九月一日 印刷発行

編輯人 米村公民館弘報委員会

土浦市小城町九一九

印刷人 かすみ 騰 写 堂

電話四八九番

発行人 米村公民館長飯島吉堯

米村公民館

米村公民館